

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-13

三井嘉都夫教授の退職にあたって

市瀬, 由自

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政地理 / JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY

(巻 / Volume)

20

(発行年 / Year)

1992-03-31

三井嘉都夫教授の退職にあたって

三井嘉都夫教授は1992年3月をもって、法政大学文学部を定年退職されることになりました。教授は、1922年1月に静岡県富士郡今泉村（現在の富士市）で生まれ、1992年に満70歳の誕生日を迎えられました。1941年に法政大学高等師範部地理歴史学科に入学後、1950年には同大学文学部地理学科を卒業されました。卒業と同時に法政大学文学部助手に就任され、地理学概説、海洋・陸水学、自然地理学演習Ⅱなどの科目を担当されて、今日まで40余年の永きにわたって多数後進の教導と育成にあたられました。また、1970年までは財団法人・資源科学研究所地理学研究室に研究員として兼務されました。この間、資源科学研究所においては、陸水学では故吉村信吉先生、自然地理学では故多田文男先生の薫陶を受けられ、法政大学においては故田中館秀三先生や多田文男先生に師事して自然地理学、とくに陸水学を専攻されました。

多田文男先生は法政大学文学部地理学科の創設にかかわられた一人であるとともに、同学科の学風とも言える、隣接諸科学の成果を広く取り入れながら、野外調査を基礎に自然環境の地域的特性を究明するという思想を築かれました。三井教授は多田文男先生の下でこの影響を受けられ、野外調査を精力的に続けて多くの調査研究成果を世に問われ、法政大学出身の研究者として活躍されました。また、1950年には法政大学地理学会の結成に尽力され、永く会長の職に就任されて同学会の発展にも貢献されました。

三井教授の研究活動は毒水の研究、地下水の賦存状態と水利に関する研究、河川洪水と水害に関する研究、流送土砂礫の移動に関する研究、河床変動に関する研究、地下水の塩水化、塩水遡上、水質汚濁に関する研究など、内容は多岐にわたっております。これら研究成果の中で、1960年3月には渡良瀬川を初めとして日本各地の河川の研究が実って、「人為にともなう河床変動に関する地理学的研究」と題する論文が提出され、法政大学から文学博士の称号が授与されました。

研究成果の根底にみられるものは、人間生活とのかかわりによる自然環境の変貌過程を実証的に考察したものであり、水害、水利用と開発・保全などの諸問題を通じて地理学の社会性に寄与しております。これらは多田文男先生の標榜された応用地形学を体系化するための礎石の一つを担ったものでもあります。多田文男先生のご高著「自然環境の変貌—平野を中心として—」（東京大学出版会・1964年）の中に、三井教授の成果が抄録記載されていることも、多田地理学の伝統を継承する一人であることを示唆するものと言えましょう。

三井教授は1968年にインドのニューデリーで開催された国際地理学会議において成果を発表された後、これを機として数回にわたって海外での研究発表を行なってきました。また、1970年、1972年には吉野正敏教授の主宰された文部省科学研究費によるユーゴスラビアの海外調査に参加され、1976年には法政大学在外研究員としてスウェーデンのウプサラ大学に留学されました。これらの経験を通して日本の河川と外国の河川との比較研究を行ない、河川の地理学的研究のための永きにわたる夢を実現されました。

なお三井教授は、この間、高崎経済大学、青葉女子短期大学、専修大学、早稲田大学などにおいて非常勤講師として地理学の教鞭をとられてきました。

三井教授は研究教育活動の傍ら、文学部部長、大学院議長、および法政大学理事などの要職に就任されて、大学の発展のためにも貢献されました。また、日本陸水学会評議員や科学技術庁資源調査会専門委員をも務められ、資源調査会（水部会、治山治水部会など）においては学識経験者として成果を発表されました。さらに、1974年以降は伝統ある法政大学硬式野球部の部長としても活躍を続けられ、同野球部の名声を高めることにも寄与されました。

研究教育面においてかかる成果を挙げられた三井教授の定年退職にあたり、今後ますますご健いで過されることを心から願うものであります。

法政大学地理学会会長・市瀬由自